

桜蔭俳話会

第一二二回通信句会 選句結果

平成二十八年春。選句数は五句、うち特選一句。

(○内の数字は、特選句数で選句の内数です)

1点	山国に片栗の花望み見る	眞壽	4点	梁太き名主の土間や花菖蒲	幸
	富士の背やミツバツツジの花盛り	邦子	5点	いさかいは塩分の量四月馬鹿	ヤエ子
3点	齒科医師の強面迫り飛燕の手	幸	4点①	熊谷草ふくらむ母衣の雨はじく	安紀子
1点	泣きやんで稚の見上ぐるつるし雛	幸子	1点	ブランコをいせい良くこぐ女の子	眞三
3点①	人参の輪切りころがる余寒かな	幸枝	2点	問答を繰り返したる夏山	則敏
	爆の碑に観音御す春の空	かおる	1点①	津波後のひじきや香り際立てり	友子
5点②	皿にふきのたう劍山にふきのたう	朋子	1点	夏場所の番付書きて配る爺	幸
2点	春北風に背中押されて上り坂	安紀子	1点①	うの島に稚児乗る船や春の風	邦子
1点	春暁や生れし稚の毛濡れてをり	友子	3点③	なにごともなけれど花のみみあえる	才美
1点	雨垂れに打たれて楽し走り梅雨	則敏	2点①	轉りや少なくなりし夫婦の話	ヤエ子
1点	百草の中に控え目金蘭や	ヤエ子	5点	透す陽の濃淡のあり春障子	のり子
2点	茶屋席のまばらに坐する梅見かな	眞三	3点	海の香やひしめく影に夏蜜柑	守
1点	紫陽花のほぐれしまりの確かなり	ツル子	3点	春光や裸婦像の肌すき通る	幸子
	行く春や一家揃つて墓参り	直子	3点	花菜風ドームハウスの丸き居間	明美
1点①	大股に駅へと歩く春の雲	秀一	2点①	朧夜やふはり漂ふ古書の香	安紀子
1点	海峡の船足速く春の潮	のり子	1点①	鳥声の寿ぎあへり朝の花	かおる
4点	春疾風ビル解体の工事幕	守	3点①	ゆく春の水音ひとを待つところ	秀一
4点①	鎌倉や日和尽して花御堂	才美	2点	憲法は平和守るぞ藤の花	朋子
2点①	春嶺にsosの椅子の文字	明美	5点①	高速船地球つんざき春を行く	直子
1点	二才児の片言まじりや鯉のぼり	ツル子	1点	また会へり万朶の桜仰ぎ見る	眞壽
	草むしり半袖姿や春暑し	邦子			
	花冷や転びし脚の跡なでて	秀一			
	廢屋の川に伸びゆく躑躅かな	かおる			
	花吹雪地震でゆれる熊本や	直子			
2点	庭の花一輪生けて利休の忌	幸子			
	飛梅の宮も異国の祈り満つ	のり子			
6点①	蕎麦すすする一人の音や荷風の忌	朋子			
	おもてなしせし心をば春の風	眞三			
8点①	さくらさくら覗いてみたき嬰の夢	才美			
	沈丁花ときめく出会い期待して	眞壽			
3点	花冷や赤子うつとり沐浴す	友子			
1点	春光へかざす表紙絵さくらの図	明美			
8点③	汐干狩繩文人の齋の背ナ	守			
5点①	静寂を切りて大輪椿落つ	幸枝			
1点①	東海に迫るあたりに夏の雲	則敏			